

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和7年度）【総括表】

◆基本方針別取組状況

【達成状況（自己評価）の目安】 ◎：年度目標以上のものが達成できた ○：年度目標が概ね達成できた
△：年度目標の一部が達成できた ×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった

基本方針	重点取組項目		重点取組項目以外の取組項目数	主な取組内容（重点取組項目以外の取組みも含む）
	項目数	達成状況		
Ⅰ 住民主体による協働のまちづくり	12	◎	8	・稲毛海岸地区部会エリアでは、防犯パトロール活動をこれからも継続ができるようにやり方を変えながら実施し、累計の防犯パトロールが令和7年度で1,000回に達した。 ・打瀬地区部会エリアでは、警察署の協力による特殊詐欺被害防止の勉強会・呼びかけを実施し、地域での見守り意識の向上に繋がった。
		○	4	
		△	0	
		×	0	
Ⅱ 誰もが暮らしやすい環境づくり	12	◎	9	・幸町一丁目地区部会エリアでは、「安心サポート」の会による支え合い活動を実施。 ・幸町2丁目地区部会エリアでは、幸町2丁目住民に生活と暮らしに関するアンケートを実施。 ・磯辺地区部会エリアでは、Instagramをきっかけに子育てサークルを知り、参加する人が増加。
		○	2	
		△	1	
		×	0	
Ⅲ 福祉を支える人づくり	3	◎	2	・真砂地区部会エリアでは、地域支え合い活動「ささえあい まさご」の広報紙配布や声かけを実施。 ・高洲・高浜地区部会エリアでは、各委員会の代表者を集めた委員長会議を新たに立ち上げ、委員会相互の交流を図った。 ・幕張西地区部会エリアでは、参加者として子育てサロンや食事サービスを利用していた方が今度はボランティアとして参加してもらえるようになった。
		○	1	
		△	0	
		×	0	
		◎		
		○		
		△		
今年度の振り返り	27	◎	19	・令和7年度は、各地区部会エリアで設定された重点取組項目に基づき、地域の各実施主体が連携しながら活動を展開した。各種サロンをはじめ、地域の実情に応じた様々な活動・行事が実施され、地域住民の交流や見守り、支え合いの機会の充実が図られた。
		○	7	
		△	1	
		×	0	

今後の課題と方針	美浜区特有の地域課題（集合住宅での高齢者独居世帯、エレベーターが設置されていない中層集合住宅の住民のひきこもり・外出困難・買物困難、新旧住民間の融合、子育て世帯と高齢者世帯との交流、支え合い活動等地域福祉活動の担い手不足、活動拠点の確保 等）について、地域課題解決のため、「第5期 美浜区支え合いのまち推進計画」（美浜区地域福祉計画）において、令和7年度は各地区部会エリアで設定された重点取組項目を中心に活動を行ってきた。 今後も引続き、様々な美浜区の地域課題について「第5期 美浜区支え合いのまち推進計画」の各地区部会エリアで設定された重点取組項目を中心に地域福祉活動に取り組んでいきたい。
----------	--

資料1

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

回数	開催日	主な議題
第1回	8月26日（火）	議題（1）「美浜区支え合いのまち推進計画」の令和6年度推進状況について 議題（2） その他
第2回	3月6日（金）	議題（1）次期地域福祉計画における区支え合いのまち推進協議会について 議題（2）次期地域福祉計画に向けての美浜区における検討課題について 議題（3）みんなが主役（美浜区支え合いのまち推進協だより）について

◆区支え合いのまち推進協議会だより発行状況

号数	発行日	発行部数及び主な配布先
第24号	3月6日（金）	発行部数：4,975部 主な配布先：窓口（区役所・社協・公民館・コミュニティセンター 等）配布 町内自治会回覧用配布 4,429部

◆区の地域福祉に関する紹介事例等

【高洲・高浜地区部会エリアの取組み紹介】
エリア内の3つの会場で、それぞれ年8回「ふれあい会食」を開催しています。コロナ禍で開催できない時期もありましたが、地域の皆さんの思いに支えられ、30年以上続く歴史ある事業です。
毎回40～50人が参加し、ボランティアの皆さんが手作りの温かい食事を提供しています。季節に合わせた手作りの箸袋や、食後の歌やクイズなど、会場ごとの工夫も参加者に親しまれています。参加者の受付や運営には、「あんしんケアセンター」の職員にも協力いただいているほか、「美浜いきいきプラザ」とも連携しながら事業を実施しています。
担い手不足は課題となっていますが、ボランティアの皆さんは参加者との交流を楽しみながら活動を続けています。年8回の会食を心待ちにしている参加者も多く、地域の高齢者にとって大切な交流と居場所になっています。
地域の皆さんの思いが受け継がれ、30年以上続けてきた「ふれあい会食」。これからも地域のつながりを育む大切な場として、未来へ繋いでいきます。

～3つの会場でのふれあい食事会の様子～



高洲コミュニティセンターふれあい食事会



高洲3丁目自治会館ふれあい食事会



高浜公民館ふれあい食事会

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和7年度）【個票】

【達成状況（自己評価）の目安】◎：年度目標以上のものが達成できた場合 ○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合 ×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	基本方針	重点 取組 項目	取組項目	令和7年度		達成状況	令和8年度 目標又は予定	今後の課題と方針
				目標又は予定	実績 ※任意記載として、振り返り(感想)			
稲毛海岸地区部会エリア	I 住民主体による 協働のまちづくり	○	(1) 顔の見えるご近所 づきあいの構築	・「ふれあい いきいきサロン・子育てサロン・散歩クラブ」を今年度も引続き実施。 ・地区内4自治会で、見守り活動を実施。 ・地区内の自治会において単位自治会または小学校区内自治会合同で「夏まつり」を実施。 ・稲毛海岸地区部会が主催する「敬老会」を実施。 ・地区青少年育成委員会と地区スポーツ振興会、稲毛海岸地区部会で、これまで実施してきたイベントを継続。 ・防災に関する意識は意外と高い。この点を利用して集まる機会を増やしたい。 ・稲毛海岸地区部会が主催する高齢者研修を実施。	・「ふれあい いきいきサロン・散歩クラブ・子育てサロン」を行っている団体で実施した。 ・地区内4自治会で、見守り活動を実施した。 ・地区内の単位自治会または小学校区内自治会合同「夏まつり」を実施。 ・地区青少年育成委員会と地区スポーツ振興会、稲毛海岸地区部会で、スポーツイベント（グランドゴルフ・モルック）を実施した。 ・稲毛海岸地区部会主催「敬老会」「高齢者研修」を開催した。	○	・「ふれあい いきいきサロン・散歩クラブ・子育てサロン」を行っている団体において引続き実施。 ・地区内4自治会で、見守り活動を実施。 ・地区内の自治会において単位自治会または小学校区内自治会合同で「夏まつり」や「地区の運動会」を実施。 ・地区青少年育成委員会と地区スポーツ振興会および、稲毛海岸地区部会で、スポーツイベントを実施。 ・稲毛海岸地区部会主催「敬老会」「高齢者研修会」を開催。 ・「ふれあい食事サービス」「健康フェスティバル」の再開に向け検討。	・地域運営委員会・町内自治会連絡協議会・社協地区部会・青少年育成委員会・スポーツ振興会・民生委員児童委員協議会とのつながりを強化し、連携してまちづくりを行っていきたい。 ・自治会が無い住宅には、連絡先としての窓口等、話を持っていく術がない。管理組合がある住宅には、みなし自治会で良いので何らかの連絡先を設けてもらいたい。それには自治体の協力も必要である。
令和8年3月31日 時点								
【人口・世帯数】								
人 口：11,955人 世帯数： 5,240世帯								
【町内自治会数】	II 誰もが暮らしやすい環境づくり	○	(3) “みんなで” 支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	・稲毛海岸3丁目地区において実施されている有志ボランティア(会員)による、地域支え合い活動「稲三サポートの会」を継続して活動。 ・地域運営委員会を中心に地域内において、6月に「ごみゼロクリーンデー」、年末に「クリーン作戦」活動。 ・青少年育成委員会が主催している、地区内の遊歩道での「あじさいプロジェクト」の実施。	・地域支え合い活動「稲三サポートの会」の活動を実施した。 ・地域運営委員会を中心に地域内において、「ごみゼロクリーンデー」「クリーン作戦」活動を実施した。 ・青少年育成委員会主催「あじさいプロジェクト」を実施した。	○	・地域支え合い活動「稲三サポートの会」の活動を実施。 ・地域運営委員会を中心に地域内において、「ごみゼロクリーンデー」「クリーン作戦」活動を実施。 ・青少年育成委員会主催「あじさいプロジェクト」を実施。 ・稲毛海岸地区部会主催のボランティア講座を実施。	・既に実施され定着している既存の活動を継続・充実させながら、地域住民のニーズに応じた新たな活動・イベントを考えていきたい。
(第38地区連協) 16町内自治会								
【高齢化率】								
高齢化率：15.8%	III 福祉を支える人づくり	○	(4) 防犯・防災対策を通じた地域づくり	・地区内の避難所運営委員会の関係を強化し、訓練や防災イベントを実施し、自治会に加入していないところにも呼びかけていく。 ・防犯パトロール隊の高齢化対策を早急に改善したい。	・避難所運営委員会が防災訓練の全体的な方向性や統括をしながら開設訓練を実施。 ・防災訓練が実施できる自治会は独自に実施。 ・防犯パトロールは少しやり方を変えて継続できるようにした（以前は2ルート実施を1ルートに減らした） ・第46回美浜区避難所開設重点訓練の会場として地区内小学校にて実施した。	○	・各避難所運営委員会に協力を依頼し、防災意識の向上を図る。 ・防犯パトロールが令和7年度中に1000回に達した。これを機に若干ではあるがモチベーションアップとなり継続していく。	・自治会を設立していない住宅や自治会があっても加入していない世帯の防災活動・防災対策について考えていきたい。
【地域の特徴】								
地区の北側は国道14号が東西に走り、東側は黒砂水路を挟んで幸町に、西側は真砂に接し、南側は高洲となる。埋め立て前は海岸線であった。集合住宅が多く立ち並ぶ地域であったが、近年は高層マンションや一戸建て住宅街も建設されている。								
	II 誰もが暮らしやすい環境づくり	○	(12) オンラインや訪問相談等の活用による新しい情報伝達の仕組みづくり	・SNSを活用したサロン等の情報提供や、デジタル回覧板の活用、スマホアプリを利用した地区限定の情報発信等、新しい情報伝達の運用について実践的運用を考える。	・地区連協としての情報交換は積極的にSNSを活用している。 ・単位自治会においても有料のSNSを用いた回覧板等を運用しているところもある。 ・社協地区部会においては事務局レベルではSNSを使っている。	○	・SNSを活用したサロン等の情報提供等、情報伝達の運用について実践的運用を拡充。	・プライバシーを重んじる方には相応の配慮をした上で、協力くださる方を積極的に取り込み、またSNSが得意な方に指導してもらいながらより良い物を構築していきたい。
				・地域行事（祭り・スポーツイベント等）を活発にし、多くのボランティア参加を促し、福祉活動の輪を広げていく。 ・ボランティア活動とは何かを再確認し、その周知と敷居が低い状況を生み出したい。 ・稲毛海岸地区部会主催のボランティア講座を実施。	・地区連協の役員会や社協地区部会の理事会において情報発信をして行事があることを知らせ協力者を募っている。 ・子どもを持つ保護者を巻き込むことで行事当日の支援等は大幅確保できる環境になりつつある。	○	・地域行事にて、多くのボランティア参加を促し、福祉活動につながるようにしたい。 ・稲毛海岸地区部会主催のボランティア講座を実施。	・地域の行事・イベントを活発にすることで、まずは仲間を増やしていく。その中から活動に参画してくれる人を見出し運営の充実を図っていききたい。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和7年度）【個票】

【達成状況（自己評価）の目安】◎：年度目標以上のものが達成できた場合 ○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合 ×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	基本方針	重点 取組 項目	取組項目	令和7年度		達成状況	令和8年度 目標又は予定	今後の課題と方針
				目標又は予定	実績 ※任意記載として、振り返り(感想)			
幸町2丁目地区部会エリア 令和8年3月31日 時点 【人口・世帯数】 人 口：10,972人 世帯数： 6,788世帯 【町内自治会数】 (第28地区連協) 11町内自治会 【高齢化率】 高齢化率：31.5% 【地域の特徴】 東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで稲毛区に接し、地区内はUR都市機構が整備した千葉幸町団地が大部分を占め、国道沿いには中高層マンションのほか、スーパー、飲食店舗、自動車関連店舗などが立地する。西端は黒砂水路を挟んで高洲・稲毛海岸地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビニートなどが集積する。	I 住民主体による協働のまちづくり	○	(2) 地域福祉を推進する団体等の交流やネットワークづくり	・幸町2丁目地区部会や千葉幸町団地自治会が主催する、「交流・集いの場（サロン）」を、引続き実施。 ・あんしん幸町が事務局となっている「見守りネットワーク会議」を引続き実施。 ・避難所運営委員会が主催する防災訓練を引続き実施。場所は幸町第一中学校。	・千葉幸町団地自治会が主体となって、「憩いの場 さいわい」を開催。 ・あんしん幸町が事務局となって「見守りネットワーク会議」を開催。 ・避難所運営委員会が主催する防災訓練を、幸町第一中学校で実施。	◎	・幸町2丁目地区部会や千葉幸町団地自治会が主催する、「交流・集いの場」を、引続き実施。 ・あんしん幸町が事務局となっている「見守りネットワーク会議」を引続き実施。 ・避難所運営委員会主催の防災訓練を、幸町小学校で実施。 ・URと2丁目各地域団体が連携し、地域全体を活用したゲームを実施。	・地域全体で“地域を巻き込む”ような活動・イベントを行うことが多世代交流や担い手の発掘に繋がっていく。教育委員会や育成委員会と連携・協力していきたい。
	II 誰もが暮らしやすい環境づくり	○	(7) 地域での助け合い活動の推進	・千葉幸町団地自治会が主催する「お助け事業部」（助け合い活動）の活動を実施。 ・あんしん幸町が事務局となっている「幸町2丁目連携会議」を継続実施。 ・幸町2丁目住民に生活と暮らしに関するアンケートを実施。	・千葉幸町団地自治会が主催する「お助け事業部」の活動を実施。 ・あんしん幸町が事務局となって「幸町2丁目連携会議」を開催。 ・幸町2丁目住民に生活と暮らしに関するアンケートを実施。	◎	・千葉幸町団地自治会が主催する「お助け事業部」の活動を実施。 ・あんしん幸町が事務局となっている「幸町2丁目連携会議」を継続実施。 ・淑徳大学と連携し、生活と暮らしに関するアンケートを取りまとめ、配布。 ・バスに関する要望アンケートを実施。	外国にルーツを持つ住民が増えていくことから、多文化共生の視点を持ち、地域行事への参加を通じて既存住民との交流を促進し、地域での助け合い活動につなげていく。
	III 福祉を支える人づくり		(15) ボランティア活動への参加促進	・幸町2丁目地区部会（3つのふれあい いきいきサロン合同）が主催する「ボランティア講座」を実施。	・幸町2丁目地区部会が主催する2つの「ふれあい いきいきサロン」が合同で認知症に関する講話を開催。 ・ポッチャ等のイベントを通じて、地域への関心を高める取組を実施。	○	・幸町2丁目地区部会（2つのふれあい いきいきサロン合同）が主催する「ボランティア講座」を実施。 ・地域全体を活用したゲームを通じて、地域活動への参加のきっかけを創出する。	・地域の高齢住民の交流の場である「ふれあい いきいきサロン」への参加をきっかけに地域活動への参加（担い手の発掘）へと繋げていきたい。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和7年度）【個票】

【達成状況（自己評価）の目安】◎：年度目標以上のものが達成できた場合 ○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合 ×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	基本方針	重点 取組 項目	取組項目	令和7年度		達成状況	令和8年度 目標又は予定	今後の課題と方針
				目標又は予定	実績 ※任意記載として、振り返り（感想）			
幸町一丁目地区部会エリア	I 住民主体による 協働のまちづくり	○	（1）顔の見えるご近所づ きあいの構築	・「ふれあい いきいきサロン・子育てサロン・食事サービス・健康スポーツの会」を引続き実施。 ・特に健康スポーツの会では新たに「モルック」「健康マージャン」を企画・実施したい。また、男性も参加しやすくなるよう工夫も考えたい。 ・「スマホサロン」を淑徳大学生や地区内の学生の協力を得て開催したい。	・ふれあいサロンを引き続き開催。 ・「健康スポーツの会」では新たにモルックを実施。 ・ボッチャ・グランドゴルフを月2回実施。 ・「ふれあい給食」では会食前にシニア体操を取り入れている。 ・「盆踊り大会」「敬老会」を開催。	◎	・「ふれあい いきいきサロン・子育てサロン・食事サービス・健康スポーツの会」を引続き実施。 ・ふれあいサロンの新規事業として、ゲームや初心者健康マージャン教室等を検討する。 ・ボッチャ・グランドゴルフを引き続き実施。 ・「盆踊り大会」「敬老会」を引き続き開催。	・サロン等への男性参加・定着に向け、新規事業を検討したい。 ・「ふれあい給食」による会食・配食を通して、見守り活動を行う。
令和8年3月31日 時点								
【人口・世帯数】								
人 口：7,684人 世帯数：3,854世帯								
【町内自治会数】		○	（3）“みんなで”支え合 う「あんしん支え合いネット」の構築	・「幸町1丁目 健康プラザ」を実施。 ・地域の美化活動として、「朝風会」によるゴミ拾いや清掃活動の実施、「幸町公園友の会」や「幸町公園アジサイプロジェクト」では公園の清掃・管理、植栽等を実施し、現役世代を巻き込んだ次世代のリーダー養成も期待。 ・買物困難者のための朝市を土曜日朝に再開させたい。	・地域の美化活動として、ゴミ拾いや清掃活動・公園の植栽等を実施。 ・毎朝幸町公園にてラジオ体操を行った。 ・「幸町1丁目 健康プラザ」を実施。 ・「ふれあいカフェ」を実施。	◎	・「幸町1丁目 健康プラザ」「ふれあいカフェ」を引続き実施。 ・地域の美化活動を引き続き実施。現役世代を巻き込んだ次世代のリーダー養成も期待。	・独居高齢者の通いの場となるよう活動の場をさらに拡充させる。
（第36地区連協） 18町内自治会								
【高齢化率】	○	（4）防犯・防災対策を通 じた地域づくり	・行政（市）が実施している、高齢者緊急通報システム（ALSOK）の活用を普及させたい。	・青パトによる地区内防犯パトロールを実施。 ・医療機関・防災拠点・公共施設等が記されている「地域安全マップ」を活用。 ・36地区連協による「秋季 防火防災総合訓練」を実施。	◎	・36地区連協作成「地域安全マップ」を活用し、訓練を実施。 ・36地区連協発行「在宅避難ガイド」を住民に配布。 ・青パトによる地区内防犯パトロールを実施。 ・防災用品の備蓄を進め、住民にも購入を呼びかける。	・外国からの詐欺電話などの受信防止方法を周知し、注意喚起を行う。 ・防災用品の整備・充実を図る。	
高齢化率：31.5%								
【地域の特徴】	II 誰もが暮らし やすい環境づくり	○	（6）地域住民参加型の支 え合い体制の構築	・「安心サポート」の会による支え合い活動を引続き実施。 ・「幸町ハッピープレータウン」や「CoCo放課後自習室」を引続き支援。	◎	・「安心サポート」の会による支え合い活動を引続き実施。 ・「幸町ハッピープレータウン」や「CoCo放課後自習室」を引続き支援。	・住民同士の見守りを通じて、支援が必要な方をあんしんケアセンターなどの関係機関につなげる体制づくりを進める。	
東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで、中央区登戸に接する。地区内は高層低層の集合住宅が大部分を占め、一部戸建て住宅があるほか、国道沿いには大型事業所も立地する。西端は道路を挟んでJR千葉みなと駅や千葉市役所などが立地する中央区千葉港地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビニートなどが集積する。			○	（8）地域の保健と医療と の連携による心身の健康づ くり		・理学療法士による「健康教室」を引続き実施。	◎	・理学療法士による「健康教室」を今年度も引続き実施。
		○		（10）誰もが身近に得るこ とができ、分かりやすい情 報の発信	・36地区連協による広報紙「けやき」を年6回 隔月で発行。地区部会が年6回 発行する広報紙「小窓」と交互に発行する予定。 ・幸町一丁目ガーデンタウン地区において、有線ケーブルテレビにより、引続き地域の情報を発信。	・36地区連協による広報紙「けやき」と地区部会による広報紙「小窓」を交互に年6回発行。 ・幸町一丁目ガーデンタウン地区にて、有線ケーブルテレビによる地域情報を発信。		◎
	III 福祉を支える人 づくり		（15）ボランティア活動へ の参加促進	・理学療法士による「健康教室」を今年度も引続き実施。	・理学療法士による健康教室を開催。 ・認知症サポーター養成講座を開催。 ・広報誌小窓による周知を実施。	◎	・認知症サポーター養成講座を開催。 ・広報誌「小窓」による周知を実施。	・地域イベントや広報誌を通じて、地域活動・ボランティア活動への参加を促進する。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和7年度）【個票】

【達成状況（自己評価）の目安】◎：年度目標以上のものが達成できた場合 ○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合 ×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	基本方針	重点 取組 項目	取組項目	令和7年度		達成状況	令和8年度 目標又は予定	今後の課題と方針
				目標又は予定	実績 ※任意記載として、振り返り(感想)			
高洲・高浜地区部会エリア	Ⅰ 住民主体による協働のまちづくり	○	(1) 顔の見えるご近所づきあいの構築	・「ふれあい いきいきサロン・散歩クラブ・食事サービス」を、引続き実施。 ・「いきいきサロン」情報交換会を実施。 ・「こどもフェスタ」を引続き実施。 ・「高洲・高浜地区合同敬老会」について、スタッフの準備の負担を考慮した形態で引続き実施し、持続可能な敬老会を考えていきたい。	・「いきいきサロン」「散歩クラブ」「ふれあい会食会」「こどもフェスタ」を継続実施し、地域交流の場を維持した。 ・合同敬老会を実施し、持続可能な運営方法の検討を進めた。	◎	・「ふれあい いきいきサロン・散歩クラブ・食事サービス」を、引続き実施。 ・「いきいきサロン」情報交換会を実施。 ・「こどもフェスタ」を引続き実施。 ・敬老会及びバス旅行の実施のあり方について、1年をかけて検討する。	・「ふれあい 食事サービス」の開催が、参加者にとっての交流の場・安否確認の場となっている。あんしんケアセンターとも連携しながら今後も引続き実施していきたい。
令和8年3月31日 時点								
【人口・世帯数】								
人 口：38,162人 世帯数：20,995世帯								
【町内自治会数】								
(第29地区連協) 25町内自治会	Ⅱ 誰もが暮らしやすい環境づくり	○	(5) 町内自治会・集合住宅の集会所などの地域資源を活用した交流の場づくり	・高洲・高浜地区部会 ボランティア委員会が中心となってJR稲毛海岸駅前の花壇の手入れを実施。	・令和7年度の協議において、夏季の照り返しや散水等による花壇維持が困難となったことから、花壇維持の終了に向けた作業を進めた。	◎	・稲毛海岸駅前清掃活動の実施	・独居高齢者・高齢者世帯の方だけでなく若い世代の方たちもいるような集いの場をつくり、世代間交流が図れるようにしていきたい。
【高齢化率】								
高齢化率：32.5%								
【地域の特徴】								
区のほぼ中央に位置し、JR京葉線稲毛海岸駅があり、駅前には大型商業施設があるほか、行政施設としてコミュニティセンター・図書館、金融機関などの機能が集積し、その周りをUR都市機構の集合住宅団地や民間マンションなどの住宅地区が取り囲んでいる。北は稲毛海岸（町名）、南側は高浜に接しており、東側は黒砂水路を挟んで幸町、西側は草野水路を挟んで真砂・磯辺に接している。 高浜地区は、海岸線に接しており、海辺には日本一の長さを誇る人工海浜や稲毛海浜公園が整備されている。隣接する高洲地区と連なった集合住宅団地の地区を形成するほか、西側に隣接する磯辺地区ほどではないが5丁目・6丁目にはまとまった戸建て住宅地区も存在する。								
	○	(9) 健康づくりイベント等への参加促進	・美浜いきいきプラザと協働した「健康フェスティバル」を引続き実施。	・美浜いきいきプラザと協働で「健康フェスティバル」を開催し、健康測定会・講演会を実施。	◎	・美浜いきいきプラザと協働した「健康フェスティバル」を引続き実施。	・いきいきプラザやあんしんケアセンターと連携してイベントを企画・実施していきたい。	
Ⅲ 福祉を支える人づくり			(15) ボランティア活動への参加促進	・引続き、社協広報紙を活用して、新たな担い手を発掘したい。 ・11月に高洲・高浜地区部会と高洲コミュニティセンターとの共催で、高齢者の相談窓口についての講演会を開催予定。	・地区部会活動への理解促進を図るため、新たな取り組みとして委員会活動が分かる広報チラシを作成した。 ・各委員会の代表者を集めた委員長会議を新たに立ち上げ、委員会相互の交流を図った。	◎	・引続き、社協広報紙を活用して、新たな担い手を発掘したい。 ・高洲・高浜地区部会と高洲コミュニティセンターとの共催で、高齢者の相談窓口についての講演会を開催予定。	・委員長会議の開催を通じて、今後の地区部会活動の方針や各地区部会の活動内容について周知を図り、活動の推進につなげていきたい。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和7年度）【個票】

【達成状況（自己評価）の目安】◎：年度目標以上のものが達成できた場合 ○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合 ×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	基本方針	重点 取組 項目	取組項目	令和7年度		達成状況	令和8年度 目標又は予定	今後の課題と方針
				目標又は予定	実績 ※任意記載として、振り返り(感想)			
真砂地区部会エリア	Ⅰ 住民主体による協働のまちづくり	○	(2) 地域福祉を推進する団体等の交流やネットワークづくり	・真砂地区部会が主催する、「ふれあい いきいきサロン・子育てサロン・食事サービス(ふれあい会食会)」や「啓蒙活動コンサート(クリスマスコンサート)」を引続き実施。 ・地域運営委員会 会議の実施。 ・「真砂コミュニティまつり」「美浜区民フェスティバル」への参加による、真砂地区の各種団体のPRの実施。	・真砂地区部会が主催する、「ふれあい いきいきサロン・子育てサロン・食事サービス」や「クリスマスコンサート」を実施。 ・地域運営委員会 会議の実施。 ・「真砂コミュニティまつり」「美浜区民フェスティバル」への参加による、真砂地区の各種団体のPRの実施。	◎	・真砂地区部会が主催する、「ふれあい いきいきサロン・子育てサロン・食事サービス」や「クリスマスコンサート」を引続き実施。 ・地域運営委員会 会議の実施。 ・「真砂コミュニティまつり」「美浜区民フェスティバル」への参加による、真砂地区の各種団体のPRの実施。	・高齢者の交流の場となる「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい食事サービス」等をさらに充実・活発にし、高齢者が孤独感・疎外感を感じることをないようにしていきたい。また、地域活動従事者がやりがいを感じられるような企画内容にしていきたい。
令和8年3月31日 時点 【人口・世帯数】 人 口：26,580人 世帯数：13,662世帯								
【町内自治会数】		○	(3) “みんなで” 支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	・真砂地区部会「ささえあい まさご」の、継続実施。 ・自治会が中心となっている、見守りを兼ねた防犯パトロールの実施。 ・千葉西警察署や地元金融機関の協力を得て、地域住民の交流の場において高齢者への詐欺被害防止の啓発活動を行う。	・真砂地区部会「ささえあい まさご」によるゴミ出し支援・買物支援等を実施。 ・自治会が中心となって、防犯パトロールを実施。 ・千葉西警察署と連携して町内自治会の協力を得て防犯ポスターを貼り出し掲示。	◎	・真砂地区部会「ささえあい まさご」の、継続実施。 ・自治会が中心となっている、見守りを兼ねた防犯パトロールの実施。 ・千葉西警察署や地元金融機関の協力を得て、詐欺被害防止の啓発活動を行う。	・地域支え合い活動において、高齢のボランティアスタッフの肉体的・体力的負担を軽減させるような方策を考えることが活動の継続性・高齢者のボランティア参加を促進・促すことにつながっていくと考えられる。
(第31地区連協) 33町内自治会 【高齢化率】 高齢化率：30.7%								
【地域の特徴】 北は国道14号に接し、花見川区及び稲毛区、一部は稲毛海岸に隣接し、花見川を挟んで西は若葉、草野水路を挟んで東は高洲地区に接する。南はJR京葉線の線路を挟んで磯辺に接する。 区の東西の中央に位置した拠点地区であり、JR京葉線検見川浜駅付近から北側一帯に行政機関・商業施設などが集積されている。美浜区役所のほか美浜保健福祉センター・文化ホール複合施設、美浜消防署、真砂中央公園があるほか、千葉西警察署や西県税事務所などの県の機関も地区内に立地、駅周辺エリアには大型の商業施設や高層マンションが集まっている。	Ⅱ 誰もが暮らしやすい環境づくり	○	(10) 誰もが身近に得ることができ、分かりやすい情報の発信	・地域運営委員会のホームページで情報発信を引続き実施。誰もが興味を持って見たくなるように身近な内容を充実させる。 ・真砂地区部会が発行する広報紙「真砂ふれあいだより」の地域内全戸配布。	・地域運営委員会のホームページ内で、各団体が情報を随時更新。 ・真砂地区部会が発行する広報紙「真砂ふれあいだより」を地域内に全戸配布。	◎	・地域運営委員会のホームページで情報発信を引続き実施。 ・真砂地区部会が発行する広報紙「真砂ふれあいだより」の地域内全戸配布。	・真砂地区は詐欺被害が多いため、さらなる対策（情報提供・発信）を講じていきたい。
	Ⅲ 福祉を支える人づくり		(14) ボランティア人材の育成	・地域支え合い活動「ささえあいまさご」の、担い手（ボランティア協力員）の発掘・養成。	・地域支え合い活動「ささえあいまさご」では、広報紙配布や声かけを実施。	◎	・地域支え合い活動「ささえあいまさご」の、担い手（ボランティア協力員）の発掘・養成。	・様々な活動における日常事務の処理をパソコン等により電子化・デジタル化させて、負担を軽減させることにより、活動参加者を確保していきたい。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和7年度）【個票】

【達成状況（自己評価）の目安】◎：年度目標以上のものが達成できた場合 ○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合 ×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	基本方針	重点 取組 項目	取組項目	令和7年度		達成状況	令和8年度 目標又は予定	今後の課題と方針
				目標又は予定	実績 ※任意記載として、振り返り(感想)			
磯辺地区部会エリア	Ⅰ 住民主体による協働のまちづくり		(1) 顔の見えるご近所づきあいの構築	・磯辺地区部会が主催する、「ふれあい いきいきサロン・子育てサロン・食事サービス(ふれあい会食会)」を、引続き実施。 ・「ミニサロン」の普及と充実に努める。 ・「ゆるカフェ」の周知と充実に努める。	・磯辺地区部会が主催する「ふれあい いきいきサロン・子育てサロン・食事サービス」を、引続き実施。 ・年度末で4自治会のミニサロン開催を支援しているが、次年度に向けて新たに1自治会でのミニサロン開催を準備中。 ・「ゆるカフェ」周知の実施。	◎	・磯辺地区部会が主催する「ふれあい いきいきサロン・子育てサロン・食事サービス」を、引続き実施。 ・6月時点で、5自治会のミニサロン開催を支援するに至り、さらなる開催の支援を目指している。 ・「ゆるカフェ」周知の実施。	・集いの場となる「サロン」の周知・普及活動を引続き行い、地域の高齢者の交流機会の場を充実させていきたい。
令和8年3月31日 時点								
【人口・世帯数】								
人 口：18,286人 世帯数： 8,318世帯			(3) “みんなで” 支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	・磯辺地区（33地区連協）28自治会の内4自治会で実施している「見守り活動」の継続と「支え合い活動」への発展に努める。	・「見守り・声かけ活動」は、4自治会で継続。	◎	・磯辺地区（33地区連協）28自治会の内4自治会で実施している「見守り活動」の継続と「支え合い活動」への発展に努める。	・「見守り・声かけ活動」を継続させながら「支え合い活動」へと発展させていきたい。
【町内自治会数】								
(第33地区連協) 28町内自治会								
【高齢化率】	Ⅱ 誰もが暮らしやすい環境づくり	○	(7) 地域での助け合い活動の推進	・「地域支え合い活動」について、磯辺地区（33地区連協）は自治会単位で実施している。自治会によっては、まだ活動の組織がないため実施に向けた啓発・説明等、立ち上げの努力を行っていききたい。	・「支え合い活動」の啓発・説明を実施。	△	・「地域支え合い活動」について、磯辺地区（33地区連協）は自治会単位で実施している。自治会によっては、まだ活動の組織がないため実施に向けた啓発・説明等、立ち上げの努力を行っていききたい。	・地域課題の一つである高齢者福祉の推進にあたり、5自治会で実施している「見守り活動」を、「地域支え合い活動」へと展開・繋げていけるよう考えていきたい。
高 齢 化 率：35.1%								
【地域の特徴】								
JR京葉線検見川浜駅及び京葉線の線路の手前まで、西は花見川を挟んで荻瀬に接し、東は草野水路を挟んで高浜に接する。 駅の南側周辺には中高層マンションや団地が建ちならび、UR都市機構の磯辺第一団地等の大規模な団地がある。その外側には、定住性の高い戸建の住宅地が海に向かって広がっており、中高層の団地・マンションなどが立ち並ぶ。海岸の手前には県立磯辺高校、県立千葉西高校があり、県救急医療センター、海浜病院などの公的機関が存在する。		○	(12) オンラインや訪問相談等の活用による新しい情報伝達の仕組みづくり	・磯辺地区部会が主催する「ふれあい 子育てサロン」の様子・情報のInstagram発信を、さらに充実・普及させていく。	・「Instagramを見て、子育てサークルを知った」という参加者が増加。 ・外国人住民への周知を目的に、英語版チラシを企画し、Instagramでの情報発信を検討。	◎	・磯辺地区部会が主催する「ふれあい子育てサロン」のInstagramでの情報発信を充実。 ・外国人住民への周知として、英語版チラシを作成し、希望者に配布、Instagramでも発信。	・地域情報の発信・回覧・連協会議資料・自治会費の集金等について、今後、地域活動においてもインターネットの活用等デジタル化対応について考えていく必要がある。
		○	(15) ボランティア活動への参加促進	・磯辺地区部会が主催する「ボランティア講座」の実施。 ・事業所との交流の継続のなかで、情報交換を行いつつ、ボランティア活動に興味がある人を地区部会の事業に参加してもらえるようにしていきたい。	・磯辺地区部会ボランティア委員会による見守りコーディネーターの支援を実施。 ・事業所との交流の中で情報交換を行い、ボランティア活動に興味のある方への周知を実施。	○	・磯辺地区部会が主催する「ボランティア講座」の実施。 ・磯辺地区部会ボランティア委員会による見守りコーディネーターの支援を実施。 ・事業所との交流の中で情報交換を行い、ボランティア活動に興味のある方への周知を実施。	・現役世代のボランティア確保に向け、平日・日中中心の活動とのミスマッチが課題となっている。活動内容や参加方法を工夫し、多様な世代が参加しやすい体制づくりを進める。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和7年度）【個票】

【達成状況（自己評価）の目安】◎：年度目標以上のものが達成できた場合 ○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合 ×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	基本方針	重点 取組 項目	取組項目	令和7年度		達成状況	令和8年度 目標又は予定	今後の課題と方針
				目標又は予定	実績 ※任意記載として、振り返り(感想)			
幕張西地区部会エリア	Ⅰ 住民主体による協働のまちづくり	○	(3) “みんなで” 支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	・「幕西5656食堂」（地域子ども食堂）を引続き実施。 ・高齢者を対象としたバス研修旅行を実施。	・「幕西5656食堂」は、スーパー等による食材の提供、調理や受付のボランティアスタッフ等、幅広い年代の方たち・団体・企業からの協力により開催することができた。 ・高齢者を対象としたバス研修旅行を実施。	○	・「ふれあい いきいきサロン・子育てサロン・食事サービス」を、引続き実施。 ・サロン（交流・集いの場）を引続き実施。 ・「幕西5656食堂」を引続き実施。 ・散歩クラブの新規立ち上げに向け、検討を進める。	・見守り活動が立ち上がっていない自治会に対して、引続き「見守り活動」の実施について働きかけていきたい。 ・幕張西地区部会エリアでは、30地区連協（町内自治会）と幕張西地区部会との協力体制が整っているので、より一層この連携が強まるようこれからも努めていきたい。
令和8年3月31日 時点								
【人口・世帯数】								
人 口：11,634人 世帯数： 5,058世帯								
【町内自治会数】								
(第30地区連協) 14町内自治会								
【高齢化率】	Ⅱ 誰もが暮らしやすい環境づくり	○	(5) 町内自治会・集合住宅の集会所などの地域資源を活用した交流の場づくり	・安全・安心のまちづくりを目指して秋頃に防災訓練を実施。 ・「盆踊り」を、地域内の各団体と連携・協力して、引続き実施。	・幕張西小学校の体育館・校庭を利用して、防災訓練を実施。 ・「盆踊り」を、地域内の各団体と連携・協力して、引続き実施。	○	・安全・安心のまちづくりを目指して秋頃に防災訓練を実施。 ・「盆踊り」を、地域内の各団体と連携・協力して、実施。 ・「スポーツフェスタ」を秋頃実施。	・「盆踊り」「スポーツフェスタ」が、地域住民の交流の場・親睦の場・地域づくりの場としてこれからも継続して開催できるよう地域内の各団体と連携・協力していきたい。
高齢化率：20.7%								
【地域の特徴】								
区の北西端に位置した国道14号と東関東自動車道との間に広がる住宅地域。 浜田川を挟んで東側は花見川区幕張町、国道14号を挟んで北側は花見川区幕張本郷、西側は習志野市、南側は浜田に接している。 国道沿いにはゴルフ練習施設のほか、商業店舗が立ち並んでいるほかは、戸建て住宅地域が広がっている。 国道14号より海側はかつての海岸線であるが、幕張西地区よりも埋め立ての時期が早かった地域については花見川区幕張町に編入されている。								
	Ⅲ 福祉を支える人づくり		(15) ボランティア活動への参加促進	・幕張西公民館と共催し開催する、「ボランティア講座」を引続き実施。	・「ふれあい食事サービス」では、手伝いとして参加した方に新たにボランティア委員として加わっていただくことができた。 ・「子育てサロン」では、以前、参加者として利用していた方が今度はボランティアとして参加してもらえるようになった。	◎	・幕張西公民館と共催し開催する、「ボランティア講座」などを引続き実施。	・引続き、新たな担い手の発掘・養成を進めるため「ボランティア講座」の開催や声掛け・口コミを行っていきたい。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和7年度）【個票】

【達成状況（自己評価）の目安】◎：年度目標以上のものが達成できた場合 ○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合 ×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	基本方針	重点 取組 項目	取組項目	令和7年度		達成状況	令和8年度 目標又は予定	今後の課題と方針
				目標又は予定	実績 ※任意記載として、振り返り(感想)			
打瀬地区部会エリア	Ⅰ 住民主体による協働のまちづくり	○	(4) 防犯・防災対策を通じた地域づくり	・防災対策となる「備えパーク」を、引続き実施。 ・千葉県警・千葉西警察署の協力による、特殊詐欺被害防止のための勉強会の実施。 また、千葉西警察署の地域一体となったまちづくりの活動として、春夏秋冬のイベントに特殊詐欺防止の呼びかけを実施。 ・「自身への備え」「在宅避難」についての防災講座の開催。	・防災対策となる「備えパーク」を、実施。 ・千葉県警・千葉西警察署の協力による、特殊詐欺被害防止のための勉強会・詐欺防止の呼びかけを実施。 ・打瀬中学校EX講座で「地震への備え」「在宅避難」についての防災講座の開催。	◎	・防災対策となる「備えパーク」を、引き続き実施。 ・千葉県警・千葉西警察署の協力による、特殊詐欺被害防止のための勉強会・詐欺防止の呼びかけを引き続き実施。 ・「地震への備え」「在宅避難」についての防災講座の開催。	地域ニーズに応じた事業を継続しながら効果を検証するとともに、地区内の各種団体や民間企業との連携を進め、防災・要支援者対策やマンション単位での見守り・支え合い体制の充実が課題となっている。
令和8年3月31日 時点								
【人口・世帯数】								
人 口：31,140人 世帯数：11,970世帯								
【町内自治会数】								
(第47地区連協) 27町内自治会	Ⅱ 誰もが暮らしやすい環境づくり	○	(5) 町内自治会・集合住宅の集会所などの地域資源を活用した交流の場づくり	・軽度認知障害(MCI)に関する講座を開催及び認知症をテーマにした映画上映会を開催。 ・認知症カフェを継続して開催。 ・ベイタウン商店会が運営するコミュニティスペース「絆」での、認知症カフェ・麻雀サークル・音楽会・書道教室等の実施。 ・「グリーンスローモビリティ」の本格運用の定着と運用後の実績を踏まえて運用方法についての継続検討。 ・「子ども街歩き&クリーン作戦」を今年度も引続き実施。	・軽度認知障害(MCI)に関する講座を開催。 ・「認知症カフェ」「フリースペース」を開催。 ・コミュニティスペース「絆」での、認知症カフェ・麻雀サークル・音楽会・書道教室等の実施。 ・「グリーンスローモビリティ」の本格運用の定着と運用後の実績を踏まえて運用方法について検討。 ・「子ども街歩き&クリーン作戦」を実施。 ・「街区サロン」の開催を拡充。	◎	・「認知症カフェ」「フリースペース」を開催。 ・コミュニティスペース「絆」での認知症カフェ・麻雀サークル・音楽会・書道教室等の実施。 ・「グリーンスローモビリティ」の本格運用を開始。 ・「子ども街歩き&クリーン作戦」を実施。 ・打瀬地区部会の新規事業として「手作りサロン」を2回/年開催。 ・県保険医協会の協力により新たに歯科分野の健康セミナーを開催。 ・各マンション単位での高齢者の交流の場である「街区サロン」の開催をさらに拡充。	・マンション単位での交流の機会を増やし、住民一人ひとりが地域の支え合いを自分事として捉えられる環境づくりを進める。
高齢化率：13.2%								
【地域の特徴】								
東側は花見川、西側・南側は幕張海浜公園、北側はJR京葉線の線路に囲また幕張新都心地区の高層マンション地区。 他の幕張新都心地区と同様に県企業庁により計画的に整備され、沿道中庭式の中層住宅を中心に、石畳風の道路舗装やデザインされた信号機などヨーロッパ風の街並み景観で統一されている。 中心部には図書館と公民館の複合施設である「ベイタウンコア」があり、各種活動の中心となっているほか、プロムナードやバレンタイン通り沿いの住戸を中心に1階には幕張ベイタウン商店街振興組合の店舗が軒を連ねている。 平成24年にはシーサイドデッキが完成し、海沿いの幕張海浜公園・幕張の浜エリアへの動線が確保され、海がより近い存在となった。								
	Ⅲ 福祉を支える人づくり	○	(14) ボランティア人材の育成	・打瀬地区部会主催「健康フェスティバル」を今年度も引続き実施。 ・打瀬地区地域運営委員会が主催するEX講座は、今年度から地域のコミュニティ広報誌(ベイタウンニュース)を通じて、住民への講師の公募を実施し、参加促進にもつなげたい。	・「健康フェスティバル」を東都大学、美浜いきいきプラザと連携し、受付、手荷物預かり、会場案内及び測定助手などで多数のボランティアの参加を頂き開催。 ・打瀬中学校EX講座では、住民への講師の公募を行い、11講座を開催。	◎	・「健康フェスティバル」を引き続き開催。 ・打瀬中学校EX講座では、昨年に引き続き講師の公募を行い、10講座を開催。	・地区内の各種団体と連携したイベントを実施し、地域福祉への関心や地域活動への参加意欲を高めることで、担い手の発掘や世代を超えた支え合いの地域づくりにつなげていくことが求められている。
	Ⅲ 福祉を支える人づくり	○	(15) ボランティア活動への参加促進	・打瀬地区部会が開催する各種行事において、参加された方々に、地区部会への加入・ボランティアとしての活動への参加を声掛けを行う。 ・30周年記念事業のプログラムとして、小中学校卒業生に向けて、ホームカミングデーを催し、地域への関心を高めてもらう企画を検討。 ・5月・8月のまつり会場に屋台を出店し、近隣の大学や中学校のボランティア参加の機会を提供する。	・打瀬地区部会開催の行事で、参加者に地区部会への加入やボランティア活動への参加を呼びかけるとともHPを活用して情報を発信。 ・30周年記念事業プログラムとして、打瀬地区小中学校卒業生に向けて、ホームカミングデーを実施。 ・祭り会場に屋台を出店し、近隣学生へボランティア参加機会を提供。	◎	・打瀬地区部会開催の行事で、参加者に地区部会への加入やボランティア活動への参加を呼びかけるとともHPを活用して専門別委員会の活動情報を発信。 ・「ベイタウンまつり」会場に屋台を出店し、近隣学生へボランティア参加機会を提供。 ・地区部会広報紙「ハローうたせ」発行に合わせて、地区部会員募集チラシを挟み込み全戸配布する。	地域活動の担い手・ボランティアの確保に向け、募集方法や声かけを工夫するとともに、ホームページ等を活用した活動情報の発信を充実させ、各世代への周知・参加促進を図る。